



第11回 ASPIC IoT・クラウドアワード2017 応募要項

特定非営利活動法人
ASP・SaaS・IoT クラウドコンソーシアム

アワード2017の概要



1. ASPIC IoT・クラウドアワードの主旨

今回で第11回となるASPICアワードは日本国内で優秀かつ社会に有益なクラウド・IoTサービスを表彰し、クラウド事業者及びユーザーの事業拡大を支援します。これによりIoT・クラウドサービスが社会の情報基盤としてさらに発展・確立することを目的としています。

2. 募集部門及び分野

- (1) ASP・SaaS部門 ①社会業界特化系分野 ②基幹業務系分野 ③支援業務系分野
- (2) IaaS・PaaS部門 ①IaaS分野 ②PaaS分野
- (3) IoT・AI部門 ①IoT分野 ②AI分野(AI分野は今回新設)
- (4) DC部門
- (5) 運用部門 ①DC運用分野 ②サービス運用分野(サービス運用分野は今回新設)
- (6) ユーザ部門

3. 応募方法 * 応募は無料です

- (1) 受付開始 2017年6月9日(金) ※申込はASPICのHP「申込フォーム」からお申込ください。
- (2) エントリーシート提出締切 2017年8月31日(木) * エントリーシートの提出をもって【応募完了】となります。

- エントリーシート入手方法については、申込フォーム入力後に届く自動返信メール本文内に記載されております。
- エントリーシートの項目に沿ってご記入いただき award2017@aspicjapan.org 宛に送付ください。
- 表彰状ならびに表彰楯には、エントリーシートに記入された「エントリーサービス名」の刻印をいたしますのであらかじめご了承ください。

アワード受賞企業のメリット



●新聞等の報道により企業名・サービス名などがとりあげられます。

受賞企業・サービスは、取材及びプレスリリース等により複数の媒体にとりあげられ、サービスの認知度向上とともに顧客の信頼性向上に貢献します。

●授賞式及びASPICセミナー等での発表

各賞の発表及び授賞式はASPIC主催の表彰式を開催します。
最も優れたサービスには、総務大臣賞が授与されます。その模様が総務省HPに掲載されました。
受賞サービスは、ASPICの主催する各種セミナー等で発表の機会が得られます。

●受賞マークによる営業効果

受賞企業は、賞状とトロフィーが授与され、オフィスなどで展示することにより、企業のイメージアップとともに、アワード受賞マークのHP・パンフレット等への使用により営業活動に大きく貢献します。

アワード実施スケジュール



【応募受付開始】
2017年6月9日(金)

ASPIC・HPの申込フォームに記入して応募してください。

【エントリーシート提出】
提出締切 2017年8月31日(木)

エントリーシートに必要事項を記入し提出してください。
エントリーシートはASPIC・HPからダウンロードできます。

書類審査

【第一次審査】 9月上旬～中旬
書類審査通過サービスの公表

第1次通過サービス各社は、第2次審査までにプレゼンテーション資料を提出してください。

【第二次審査】 10月上旬
プレゼンテーションによる審査

各賞の決定
2017年10月中旬

表彰式

2017年11月7日(火) 経団連会館カンファレンス

アワード 申込方法



■ エントリー部門 →分類表を参照してください

※1社複数案件の応募が可能。過去のエントリー案件及び受賞案件も応募可能。

但し、総務大臣賞受賞案件はエントリーできません。

1. ASP・SaaS部門

次のアプリケーションサービスを対象とします。

A. 社会・業界特化系 B. 基幹業務系 C. 支援業務系

2. IaaS・PaaS部門

次の基盤サービスを対象とします。

D. システム基盤 E. ネットワーク基盤 F. 開発・実行基盤 G. ハード基盤サービス

3. <IoT・AI部門>(AI分野を新設)

■IoTによるデータ収集の効率化や収集されたデータの効果的活用およびIoTプラットフォーム、デバイス(センサー等)など広く募集します。(応募時点で研究中・実証中のものは除きます。)

■AIによるサービスを広く募集します。(応募時点で研究中・実証中のものは除きます。)

但し、同一サービスを2つの部門に重複させてのエントリーはできません。

NGの例1: 遠隔検針サービス ASP・SaaS部門

遠隔検針サービス IoT部門

例2: IOTプラットフォームサービス IaaS・PaaS部門

IOTプラットフォームサービス IoT部門



4. データセンター部門

- (1) 日本国内に設置されているデータセンターを対象とします。
- (2) 自社以外の複数の企業に対してネットワークを経由してサービスを提供しているデータセンターを対象とします。
- (3) データセンターのサービス提供範囲は以下のとおりです。(①、②ともエントリー上の区分はありません。)
 - ①建物(電力、ラック含む)及びハード基盤サービスを提供しているデータセンター
(サービス分類表のG区分) データセンター & IaaS
 - ②上記に加えてシステム基盤、ネットワーク基盤、開発・実行基盤の各サービスを提供しているデータセンター
(サービス分類表のD、E、F、G区分) データセンター & IaaS・PaaS

5. 運用部門

日本国内においてASP・SaaSクラウドサービスの運用・維持管理をしている企業で部門・分野を問いません。但し、アプリケーションのヘルプデスク、コールセンターのみを行っている場合は除きます。今回から、DCの運用とクラウドサービス等の運用と分野を分けました。

1. DC運用分野

データセンターの運用を実施しているサービスが対象です。

2. サービス運用分野

クラウドサービスの運用を実施しているものが対象です。

6. ユーザ部門

日本国内においてASP・SaaS IoT・クラウドサービスを活用しているユーザ企業で部門・分野を問いません。



ASPICクラウド・IoT サービス分類表

アプリケーションサービス	A 社会・業界特化系	企業活動や社会活動を支える業種・業界及び社会横断的なアプリケーション 農林・水産・鉱業、建設、製造(注)、ライフライン、交通・物流、卸・小売・飲食店、金融・保険・リース、不動産、情報通信・メディア教育・学習、観光・娯楽・宿泊、医療、福祉・保険、環境、防災・治安、行政・公務等の分野 (注)食料品、衣服・繊維、化学、鉄鋼・非鉄金属、一般・電気・精密機器、情報通信機器、輸送用機器、その他	ASPaaS	クラウドコンピューティング
	B 基幹業務系	企業等のコア・バリュー(中核的価値)に直接関わる業務を遂行するアプリケーション R&D、調達、製造、営業、マーケティング、販売・流通、在庫、アフターサービス、財務、会計、人事・研修、資産管理、その他		
	C 支援業務系	企業等のコア・バリュー創出を円滑化するためのアプリケーション 文書管理、ワークフロー管理、メール配信やアドレス帳管理、ファイル転送、電話会議、TV会議、Web会議、ブログ・SNS情報共有支援(ナレッジマネジメントを含む)、アフィリエイトプログラム、その他		
D システム基盤サービス	アプリケーションのASP・SaaS化に必要な課金・認証等の付加機能を提供するサービス 検索、認証、決済・課金、セキュリティ、位置情報、タイムスタンプ、メディア、言語変換、統合連携、その他	PaaS		
E ネットワーク基盤サービス	ネットワークの状態を監視・最適化し、安全な利用を実現可能にするサービス 検索、認証、決済・課金、セキュリティ、位置情報、タイムスタンプ、メディア、言語変換、統合連携、その他			
F 開発・実行基盤サービス	アプリケーション、システム等の開発・実行環境を提供するサービス OS、ミドルウェア、開発キット、その他			
G ハード基盤サービス	ASP・SaaSの提供に必要なハードウェア資源をネットワーク経由で提供するサービス CPU、メモリ、仮想化サーバー、ストレージ、ハードディスク、その他	IaaS		
建物 (電力・ラックを含む) 通信ネットワーク機器	データセンター			
運 用				

アワード各賞



ASPIC IoT・クラウドアワード 「総務大臣賞」

各部門の総合グランプリの中で最高位のサービスまたは企業。
(各部門の総合グランプリと総務大臣賞の重複の受賞はありません。)

ASP・SaaS部門

注：重複の受賞はありません。

1. 総合グランプリ	全評価項目の最高得点のサービス
2. 分野別グランプリ (Application分野別グランプリ)	① 社会・業界特化系分野において最も優れたサービス
	② 基幹業務系分野において最も優れたサービス
	③ 支援業務系分野において最も優れたサービス
3. ベンチャーグランプリ	ベンチャー企業による優れたサービス
4. 他各賞	優れた特徴を有するサービス



IaaS・PaaS部門

注：重複の受賞はありません。

1. 総合グランプリ	全評価項目の最高得点のサービス
2. 分野別グランプリ (基盤サービス分野別グランプリ)	①IaaS分野において最も優れたサービス
	②PaaS分野において最も優れたサービス
3. ベンチャーグランプリ	ベンチャー企業による優れたサービス
4. 他各賞	優れた特徴を有するサービス

IoT・AI部門

注：重複の受賞はありません。

1. 総合グランプリ	全評価項目の最高得点のサービス
2. 分野別グランプリ	①IoT分野において最も優れたサービス
	②AI分野において最も優れたサービス
3. ベンチャーグランプリ	ベンチャー企業による優れたサービス
4. 他各賞	優れた特徴を有するサービス



データセンター部門

注:重複の受賞はありません。

1. 総合グランプリ	全評価項目の最高得点を獲得したデータセンター
2. 準グランプリ	全評価項目で評価の高いデータセンター
3.他各賞	優れた特徴を有するデータセンター

運用部門

注:重複の受賞はありません。

1. 総合グランプリ	全評価項目の最高得点を獲得した企業
2. DC運用分野 グランプリ	DC運用分野で最も評価の高い企業
3.サービス運用分野 グランプリ	サービス運用で最も評価の高い企業
3. ベンチャーグランプリ	優れた運用を行ったベンチャー企業
4. 他各賞	優れた特徴を有するサービス



ユーザ部門

注:重複の受賞はありません。

1. 総合グランプリ	全評価項目で最高得点を獲得した企業
2. 準グランプリ	全評価項目で評価の高い企業
3. ベンチャーグランプリ	クラウドサービスの利用により優れた成果を上げたベンチャー企業
4. 他各賞	優れた特徴を有する企業

＜ベンチャーグランプリ＞

独自の技術や製品で成長していく企業を「ベンチャー企業」とし、新規に興され、創業からあまり時間が経っていない企業を対象した表彰のことをいいます。

ベンチャー企業としての要件は、概ね下記のうち2つ以上の該当があることとします。

- ① ベンチャーキャピタルから出資を受けている会社。
- ② 経済産業省・地方自治体などから、指定ベンチャーの認定を受けている会社。
- ③ オリジナルの技術・ビジネスモデルを確立していて、市場参入している会社。
- ④ 中小企業法に定められる、サービス業で資本金の額又は出資の総額が5千万円以下の会社、又は、常時使用する従業員
の数が100人以下の会社。
- ⑤ 設立5年以内の会社。